



＝日本国憲法 第九条＝

《 戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認 》

寄稿

野田にもつと平和教育を！

～新聞への2つの投稿から～

野田市原爆被爆者の会
会長 大下克典



「8月6日」は何の日でしょうか？もちろん、これをお読になっている皆様の90%以上の方はご存じだと思います。しかし、野田市の人口15万余人の中では、はたして50%の人が正解できるでしょうか？いささか疑問に思っています。正解は「米国によって広島に原爆が投下された日」です。これは地球上で人類に対して初めて使用された原爆です。昭和20年8月6日朝8時15分、私は爆心地から西方へ3・5kmの家の中にいました。2歳でした。その後20年間、原爆ドームを日常の風景としてその家で生活し、昭和41年4月から縁(就職)あつて野田市に住んでいます。58年になりました。

そして感じることは、広島と野田では「平和」に対する意識とか考え方が随分違うな、ということ。野田では切実感とか切迫感が余り感じられないのです。そんなことを考えている時、7月20日の朝日新聞の投稿欄で2つの記事を見つけました。1つ目は被爆地生まれの17歳の高校生が投稿した「転校で知った平和教育の格差」で、彼はその中で「(全国的に)平和教育の不十分さを訴えることはもちろん、意義やあり方を再確認していくべきだ。時間をかければよいということではない。学生の心にしっかりと刻まれるような平和教育を推進していくべきではないか」と述べています。2つ目は神奈川県内の41歳の中学の先生が投稿した「生徒から教わった大切なこと」で、この中学では修学旅行で広島に行き、体験的に平和学習を行うそうです。その感想文としてある生徒が「私は戦争がどのようなものかわからない。でも広島で何が起ったか、被爆された方々がどのような思いを抱いていたかは分かった。事実や人々の思いをこれから世の中に語り継いでいかなければならないと思った」と書いたそうです。

この2つの投稿記事にあるような学生が育つ平和教育が野田にはもつともつと必要です。そして、野田市の少なくとも80%の人が「8月6日」が何の日であるか正解できるように育つてほしいと思います。野田市長さん、教育委員長さん、野田の小・中・高等学校での平和教育を真剣に考え、すぐ実践に移してください。

※ 現在休会中です。

ご案内

※ 平和のための戦争展 ※

○ 11月2日(土) ピアノ&トーク

～祖国を追われたショパンの音楽を、その立場で共鳴するチェ・ソソエさんのピアノで～
＜詳しくは次号で、お楽しみに。＞

○ 2025年3月5日～11日
市役所市民ギャラリーで展示



”台湾問題”から「日本国憲法第98条二項」を考えよう！



＜第98条二項＞

「日本国が締結した条約及び確立された国際法規は、これを誠実に遵守することを必要とする。」

今から46年前の1978年8月、日本は中国との間に「日中平和友好条約」を締結しました。第1条で両国は相互不可侵、内政に対する相互不干渉などを取り決め、平和共存で友好関係を発展させると約束し今日に引き継がれています。

これに先立つ72年の9月、当時の田中角栄首相と中国の周恩来総理は日中両国の国交を回復させ、「日本国は中華人民共和国が中国の唯一の政府であることを承認する」とする日中共同声明を発出しました。この中で台湾については中国の主張を十分理解し、ポツダム宣言を堅持するとしました。ポツダム宣言の八項は日本の主権の及ぶ領土を示すとともに、カイロ宣言条項の履行を明示、その中で台湾他は中国に返還すべきとしています。

日本国憲法第98条二項はこのような過去に締結してきた条約などは誠実に遵守することを必要とするとしています。

今月の予定です

8月の 九の日行動 おしゃべりカフェ はお休みします。

8月 4日(日) 13:30～16:50

DVD 視聴と意見交換 『未解決事件 下山事件』
南部梅郷公民館 南地域九条の会

8月 10日(土) 13:30～16:00

野田・九条の会 「戦争時徴用された民間の船の悲劇」戦没船を
8月例会 記録する会の本陣司さんのお話と意見交換
樺のホール 第2集会室 野田・九条の会

9月 1日(日) 13:30～16:50

DVD 視聴と意見交換 新藤兼人監督「第五福竜丸」
南部梅郷公民館 南地域九条の会

岸田首相の無定見さ！ NATO 同調は日本に危機を呼び込む

▶ NATO にのめり込む岸田外交

岸田首相は先月、米国ワシントンで開催の NATO（北大西洋条約機構）に参加し、加盟国とともにウクライナ支援の「首脳宣言」に同調した。宣言のポイントはウクライナの NATO 加盟を進め、中国を非難、米欧は日韓に協力を求め、7兆円規模の支援を実施するというもの。ウクライナ問題は2年を超え先行きがまったく見通すことができない状態にあり、双方に死傷者は増えるばかりであり首脳会議は解決の糸口さえ見出せていない。

このような情勢であるにもかかわらず岸田首相は和平外交を紛争国双方に働きかけるべき立場を取り違え、ウクライナ支援一本槍で臨み、笑顔を振り撒き、米欧の軍事同盟である NATO に加担し続けようとしている。日本の担うべきことは近年台頭してきているグローバルサウスや ASEAN 諸国とともに世界の平和に資することであり、いざとなれば集団的自衛権を無条件で行使する NATO とは一線を隔し、引き込まれず、ましてやのめり込むべきではない。

▶ 戦争させない道を探ること

外交ばかりにいそしむ岸田政権だが、国内に目を転ずればバブル崩壊以降この30年、自民党の政策は大企業を優先し労働環境を悪化させ、国民全体の生活を向上させようという政策はずっとなおざりにしてきている。反面、防衛政策には膨大な予算を注ぎ込み、集



内閣府 HP

団的自衛権の容認の下に敵基地攻撃能力に執着。隣国との友好を大きく損ね不安を増大させている。

米国への盲従、財界からの献金、特定宗教に依存した選挙は日本の行き先を見失わせている。

ここにきて NATO への接近を図れば中国、北朝鮮またロシアは反発を強める。もし中国と台湾問題で対立し貿易停止となれば国民の生活は成り立たなくなるのは誰にでも理解できる。常に日本政府が掲げるべき道は東アジアに戦争を起こさせないこと、この一語に尽きる。

いま米欧の軍事同盟に関わるべきことなど何もない。中・朝・ロといかに友好の道を新興国（BRICS）、ASEAN 諸国と築き上げていくかである。岸田首相の使命は先人政治家が築き上げた隣国友好の道程を守りつづけることだ。

終戦間近の満州国西安にて

（昭和20年5月頃、小学校2年生）

牧野衛

その日、天気は割合良かったです。ゆっくりペースで朝ごはんを食べていたんです。すると急にガンガンと表通りが騒がしくなりました。カーテンをちよつとめくって見ると大通りをロシアの兵隊がマンドリンと呼ばれる鉄砲を持って時々空鉄砲を撃ちながら満載のトラックが走ってきたんです。トラックあり、ジープあり、えらい勢いでさつと通り過ぎた後、それを待っていたかのように間髪を入れずに満人が、ハンマーで扉をこわし、ドドドドと入ってきたんです。



家にはちよつとした庭があったんですけど、そこに立錐の余地がない程人が入ってきて、またたく間に物を持っていかれました。残ったのは柱と屋根だけでした。とっさに私は自分用のリックを背負ったその時着ていた服のまま、そこにあった靴をはいてトボトボと外に出て行きました。

せつかく準備しておいたお金の入った腹巻きも全部奪われました。

隣近所の人も同じように襲

われたらしく三々五々集まり

それから流浪生活が始まりました。



流浪時の姿（著者の母）イラスト 牧野衛